

研究報告

福山型筋ジストロフィー症児の発達に関する事例研究(3)*

熊川 宏 昭**

本研究では、これまでの2つの報告(熊川・栗山・松尾・山下, 1992⁷⁾; 熊川, 1993⁸⁾)に引き続き、ある福山型筋ジストロフィー症児のコミュニケーション発達を中心に検討を加えた。

その結果、やりとり遊びでのフォーマット形成、「同一性の指さし行動」(秦野, 1983⁹⁾)が見られた。また状態表示語(岡本, 1982¹¹⁾)の理解の始まり、音声の適用範囲拡大(般化的使用)(岡本, 1982¹¹⁾)が確認された。

続いて、これまでの報告を踏まえて、今後の検討すべき課題について言及した。

キーワード: 福山型筋ジストロフィー症、コミュニケーションの発達

I. はじめに

我々はこれまで、ある福山型筋ジストロフィー症(Fukuyama type Contingency Muscular Dystrophy; 以下、FCMD)児の2年間の経過をコミュニケーションの発達を中心に検討し、さまざまな発達の変化を報告してきた(熊川・栗山・松尾・山下, 1992⁷⁾; 熊川, 1993⁸⁾)。そこで本報告では、先の報告に引き続き、同じ対象児のその後の約1年間の変化を、やはりコミュニケーションの発達を中心に検討し、FCMD児の発達および援助についてさらに詳細な手がかりを得ることを目的とする。

II. 方法

(1)対象児の概要

観察開始時CA7歳のA児(詳細は熊川・栗山・松尾・山下(1992⁷⁾)を参照)。

(2)分析資料

A児8歳9カ月12日から9歳8カ月26日までの約11カ月の指導者(以下、T1)による記述記録の中で、コミュニケーションに関連したエピソードを分析資料とした。なお、III. 結果と考察の記

述における登場人物は、T2(同じ学部の教員)、B・C・D・E(同じ小学部の子ども)である。同じくIII. 結果と考察における(X; Y, Z)と記してあるのは、A児がCA X歳Yカ月Z日に観察されたエピソードであることを示す。

III. 結果と考察

8歳9カ月

(8; 9, 12) 「おふろ」(福音館書店)を読む。文章はT1が読んだ後に、イントネーションなども一緒にすぐ模倣する。服を脱ぐ場面になると、自分も上着を胸の所まで上げ、T1の服のボタンに手をあててあげようとする。「Aくんも入るの? 先生も脱ぐの?」と言うと大きくなづく。

おふろにつかっている場面では、お湯の絵に手をあてて、「アッチッチ」といったり、T1に「ジャー」と言いながら、手を引っ張り、水をかけてくれといったそぶりをする。T1が洗面器で水をかけるふりをすると喜ぶ。このような活動を通して、2回くらい繰り返して読むと、「キンコン」と玄関のベルのまねをしたり、T1の耳に手をあてて「アイアイ」といったりと、自分でいろいろなふり遊びをひろげていく。

(8; 9, 13) 始めは、ボールのやりとり。パズルの枠を用いたので、カタカタ音がして関心を引く。しかし、自分のところにくると穴の形に関心があり、それをじっと見つめて保持すること

* A Case Study on the Development of Child with Fukuyama Type Contingency Muscular Dystrophy (3).

** 福岡教育大学障害児治療教育センター研究部員(第1部門)
福岡県立筑後養護学校赤坂分校

が多かった。しかし、こちらにボールを投げてT1がそれを掲げるとじっと見て、ボールをこちらが投げた後もじっとボールを追視する。ボールを投げるときはT1をよく見たと思う。続いてままごと遊びをした。箱を出した途端、「チャッチャ、チャッチャ」と言って指さす。お茶をつぐ一つがれるはできる。しかし、きゅうすの慣用的使用はできない。食べー食べさせるも可。最後に電話ごっこをした。一番のって活動する。電話が切れて話し中の音を出して喜んだり、「キュウキュウシャ」と言いながら、黒板の下にある手押し車（赤色）を指さしたりする。電話を聞いているような「フン、フン」というようなそぶりも見せる。

(8; 9, 19) 「しょうぼうじどうしゃじぶた」「たべもの」2つの絵本を読む。前者は救急車の絵や、T1がだすサイレンの音や、水をかけるジャーという音などを模倣する。また、後者は、飲むまね、T1に食べさせるまねなどを行う。

(92. 9. 28.: 8; 9, 30) Bと関わっているとき待たせていた。Bとげんこつ山のたぬきさんをすると、1回目、「げんこつ山の……」ところの手を上下に合わせるところ、「オッパイのんで……」「だっこして……」「また明日」の所の動作をAが模倣した。「先生のお鼻、Aくんのお鼻、イナイナイバー」とすると、自分の身体部位は自分で手を持っていこうとする（耳はもっていかなかった）。イナイナイバーは、こちらが驚くのを大変喜ぶ。

まず、(8; 9, 13) では、指さしが2回観察されている。前後の状況から考えると、前者は「要求」、後者は「叙述」の指さし（秦野, 1983⁹⁾）と考えられる。

(8; 9, 30) では、Bとげんこつ山のたぬきさんをしていると、1回目、「げんこつ山の……」ところの手を上下に合わせるところ、「オッパイのんで……」「だっこして……」「また明日」の所の動作をAが模倣している。これは、久保山・菅井(1993⁶⁾)による分類のA段階（動作と肉声の歌の提示下で動作発信できる）に相当する活動と思われる。

8歳10カ月

(8; 10, 3) 今日は机につくと、「マンマ、マンマ」と机の方を指さすので、「ままごとするの?」というと、うなづくのでままごとをする。最初に

いただきますをして、お茶を飲むところから始める。コップを渡すと、つぐのを待たずに即座に飲みはじめようとする。また、「先生にもついで」というと、ポットをT1のコップにつけてじっとしている。続いてごはんかたまご焼きを食べるまねをする。ごはんの時は「ゴハン、ゴハン」とはっきりした音声になっている。たまご焼きの時は、食べてしばらくして、「ショウユ(?)」と発音する。「お茶が熱いよ!フーフーして」といって、熱そうにT1がコップに触るのを見て笑うことは以前と同じ。続いて、「先生のおめめ、Aくんのおめめ、イナイナイバー!」といった感じで同じように口と耳も行う。どれも自分で部位を指示でき、「キュチ」「ミンミ」と発声を伴う。イナイナイバーでは、こちらが「バー」とした時に驚くとても喜ぶ。最後に電話ごっこをするが、電話機のおもちゃが出てきて電話ごっこするより、自分で積み木などを手にあてて話す方が楽しそう。

(8; 10, 7) まず、鏡に向かっての対面遊びをする。はじめにT1が、「ウワウワウワ……」といいながら鏡を前後に動かすと、ニコッと微笑む。Aが「ヨーイドン!」というように繰り返す。すぐに動かすとニコツとする。これは5、6回続く。その合間に舌を出したりするのをまねして喜ぶ。その後、「おふろ」の絵本を読む。表紙を見るとすぐに、「アッアッ」といいながら依頼するような目つきで服を脱ごうとする。「おふろよー!」という場面では、口に手をあてて「オフロヨー!」という。

(8; 10, 10) 2時間目の途中からぐずって泣き叫ぶ。しかし、AのまねをT1が始めるや、パッと顔つきが変わってニコニコする。お互いに「オロ、オロロ……」といいながら、車椅子や椅子からずれ落ちていくことを喜ぶ。また、車椅子のステップのところにお尻をつけた時、頭をシートのところまで打って、「イタ、イタ」といいながら、頭をさすっているのをT1がまねすると再び笑って同じことをもう1回繰り返す。次にシートにきちんと座らせ、引き合いっこする。T1が引くと、Aの体が前傾し、T1の顔が遠のく。T1が「オロ、オロ……」と後ろに倒れそうなそぶりをするので、声をたてて笑う。そのうち、T1の手を握っているAの手に力がこもるのを感じたT1は、前へAに引かれるように前傾する。その時、T1の顔が勢いよくAに近づいてくるのを楽しんでいる

様。以上のようなパターンが4、5回続く。

(8 ; 10, 11) まずお茶などを飲んだ後、教室にT1が入ってきてドアを閉めると、笑った後、ドアを開けてT1と顔を見合わせ笑う。この活動を2回繰り返す。3回目、ドアを閉めて、T1、ドアの横にへばりついてかくれていると、ドアを開けたA、ドアの内側をのぞきこむようにして「バア」という。

次にラジカセのところへ行って、カセット入れのふたをあけようとするが開かない。T1の方を見て、「アッアッ」という。T1、「あけるの?」という。「ハイ」という。続いて横にあったテープを入れようとするが、入れられず、取り出してT1に渡し、「ハイ、ハイ」という(入れてくれという意を感じる)。

その後ラジカセをAの手の届かない机の上に置き、その近くへ連れていくと、指さして「アッアッ」といいながら、T1を見る。

最後に積み木を積んで、それをAに倒させる。予想外によるこぶ。回を重ねるうちに、自分で「オロロ……」と倒れそうな積み木の様子を発声したり、積み木が倒れた後、「イタカッタ」、倒れた積み木を指さして何言かつぶやいたり、また倒れた積み木を見て、「アア、チタッタ(倒れた?)」という。倒れた後、「もう1回する?」という。「ハイ」と答える。この繰り返しが7、8回続く。

(8 ; 10, 13) 国語。まねっこ遊びをする。「チュクリュッチュ！」などといいながら、押したり一引いたり交替活動を楽しむ。次に同じような具合で、Aが体を後ろへ倒すようなことをする。Aはあまりうしろへは体を倒さないが、顔と顔が近づくと笑う。

積み木を積んだのを倒す遊びでは、倒れた後、「アアア」と言ったり、倒れた積み木の1つを擬人化したように指さしながら「イタ、イタ」という。また倒れた後「イタカヤッカイ」といいながら、自分の顔を軽くたたき笑ったりする。

(8 ; 10, 16) 最初、机にあった色々な図形のプラスチックの色板が入った箱を取り出し、中の板を使ってやりとり遊びをしようとする。A、箱の中を見せると、四角形の緑色の板を取り出し、T1に渡し、自分は「アイ、アイ」と電話の応対をするまねを始めるのでAもそれをまねすると、喜ぶ。その後、ころあいを見て、自分の顔をかくし、「バー」といって顔を出す。Aは少しキョトン

としている。その後、今度は、箱の蓋で顔をかくし、「バー」といいながら蓋を上下、左右、ななめにずらし顔を出す。そのうち、Aも蓋でT1の顔がかくれている時は「バー」というので、それを合図にT1が顔を出すのを喜ぶ。T1がわざと1回の「バー」で顔を出さないといつても繰り返すA。3回いってもT1が顔を出さないと、蓋の裏をのぞいたり、箱をたたいたり、「オーイ」と呼びかけたりする。そのうち、T1と一緒に蓋を握ってT1が顔を出すのを楽しんだり、何の拍子かで「バー」が「ビー」にきこえたのか、しきりに「ビー」「ビー」という。

続いて最近、即時的な音声模倣がよく出るので、「あいうえおの本」(福音館書店)見せながら、Aの目の前でゆっくりと発音する。表紙を見せると絵の引き出しをあけようと、いつものように「ヨイショ」とりきむ。T1も一緒にりきんであげる。「あ」(「ア」)、「え」(イントネーションのみ)、「お」(「オー」)、「あんばん」(「パンパン」)が発音される。

(8 ; 10, 17) まずT1が持っていたオモチャのボクシンググローブ(中に手を入れるのにぎり手がついて、何かにぶつくとグローブからフニャと音が出る)で、Aの顔をかるく「パン」といいながら何回かたたくと、Aもその後で「バン、バン」という。そのたびにかるく顔をたたいてやると喜ぶ。T1、今度はAにグローブを渡し、「先生をバンして」という。A、「バン」といいながら、自分の顔をかるくたたいて笑う。T1が、「先生よ」と自分の顔を指さしながらいっても、あいかわらず「バン、バン」といいながらやっている。それを3回くらいやった後、T1、グローブを後ろの机の上に置く。A、「バン、バン」といいながらグローブを指さす。

T1、今度は昨日の箱の蓋を持ってきてAの前に座り、自分の顔を隠す。A、しばらく無応答。そのうち、手で蓋を強くたたく。1回たたくと「バー」と言って顔を出す。それを7~8回繰り返して、今度は3回たたくまで待つてするが、それは2回くらいでAの方が活動を止める。「今度はバーと言ってごらん」とT1が言って顔を隠す。しばらくじっとしていたA、蓋をたたいて「ビー」という。それを合図に5、6回続く。その後T1、「バー」といながら、Aの小さな声を合図にドレミファソラシドの音程に合わせて顔を出して最後にAをくすぐる。これを2回繰り返す、「今度はAやってご

らん」と渡すと、A、蓋を上下させながら、「バー」と時折言って同じようにする。時々、T1がやっているときも、A、T1の手をとって一緒にしたりする。

(8;10, 23) T1が丸い木の板を手を持ち、「ブーン」と言いながらAの周りを飛ぶふりをすると、声をたてて喜ぶ。その後、Aの「ヨーイドン」の声とともにそのふりを始めると、何回も「ヨーイドン」といって、T1がふりをするのを見て楽しむ。

(8;10, 27) 高学年の教室に時間が始ってもいたので、高学年の教室でさせてもらう。休み時間に入ってきた時から、教卓の上にあった交流先の小学校からもらったフォトスタンド(本形に見開いて立てるようになっており、右側の写真入れには、小学部4人の写真が入っている)を指さしながら「アッアッ」という。T1がAに渡すと、A、最初は膝のところに置いて見ていたが、そのうち、持ち上げ目の前2、3センチまで持ってきて、じっと写真を見ている。1、2分じっと見た後、教会のステンドグラスの絵と見比べる。T1、机の上にそれを置いて、1人ずつ指さし、「これだれ?」と聞くが、全く反応ない。3回目聞くと、Dは、「Dちゃん」と言う(日頃からよく「Dちゃん」という)。Eは「・・・コ」と出る。

まず(8;10, 3)では、(8;9, 30)にも見られているが、顔の部位の指示ができるようになってきている。これはまず、前回報告した「他者と基本的に同型的な身体」(麻生, 1992²⁾)をA児が獲得していることを新めて裏付けるものである。またこのような目に見えない部位を問われて的確にさすことができることについて、秦野(1983⁸⁾)は、不在のものの理解と同一の機制が働いている為としている。

続いて注目されるのは(8;10, 23)のエピソードである。ここではT1とのやりとりの中で、A児が「ヨーイドン」という自分の発声を、自分が望むT1が飛ぶふりを引き出す手段として使用している。これは、岡本(1965¹⁰⁾)がいうように、対人関係において、「ヨーイドン」という音声活動が、模倣から自発的道具的行動へと進んできたと思われる。

もう1つはイナイナイバーについてである。(8;

9, 30)にも見られているように、自分がしたイナイナイバーにT1が驚くのを大変喜んでいる。このように、イナイナイバーを自分から行い、明確に相手に向かってやっている場合、相手が喜ぶのを予期しているといわれる(伊藤, 1989⁵⁾)。このことはまさしく、A児が対象の“意味”、すなわち、対象をある可能態、自己との可能な潜在的な関係性(麻生, 1990¹⁾)として知覚してきていることを示すものだと思われる。

8歳11カ月

(8;11, 3) はじめに絵本「くだもの」(平山和子作 福音館書店)を見せる。この前にまねっこ遊びを少しする。今日は自分の手をたたいたり、頭をうって「イタイヨ」という活動が多い。こちらがやりとりの開始をしてできたのは、耳、両手で後ろへ引っ張る、頬を両手で軽く叩く(Aはこぶしをつくってたたいた)であった。

絵本の方は「もも」→「ンモ」、「ぶどう」→「・・・ブ」、「りんご」→「ンゴ」(イントネーションは上手に模倣)、「かき」→「カキ」(2回くらいモデルを示した後に)、続いて、「あそびましょ」(松谷みよ子作 偕成社)を見せる。「くまさん、くまさん、こんにちは」という場面でT1が「こんにちは」といいながら頭を下げると、「……ワ」といって頭を下げる。しかし、その後「キュウキュウシャ」といってむずがるので、「じどうしゃいろいろ」(講談社)を見せる。パトカー、消防車など、T1がサイレンの音などをまねしながら見せると、とても喜ぶ。「とらつく」→「コワック」と発音(モデル1回提示後)、その後自分で指さし「コワック」という。

ここでは、「りんご」→「ンゴ」と模倣する際、イントネーションも上手に模倣している点が注目される。飯高(1976⁴⁾)は、音声模倣の際、抑揚の変化が大変重要な問題で、抑揚そのものに意味機能や感情が付与していることを指摘している。この点から考えると、このA児のイントネーションの模倣と見られる発声にもそのような機能、感情が込められている可能性があると思われる。

9歳4カ月

(9;4, 6) 入学式の時は大声を出してさ

わいでいる。終わってから（学校に来たときもそうだった）「アッチイコウ」を指さしとともに連続してぐずる。

(9; 4, 10) 朝の会でも今日は元気よく返事できる。はじめとおあわりのあいさつも、やるまで少し間があったがやってくれた。

(9; 4, 10) 算数の時間は2ピースの図形構成。机の上で私が音を出しながら2片を「ガッチャーン」と言って合わせると笑う。その後、丸、四角、十字などを次々と同じようにして提示すると注意を向けてみる。次に2片を合わせた四角、三角、丸を左から順に置いて「丸はどれ？」とたずねると、スッと手を丸の上に置く。

(9; 4, 10) 同じく算数の時間、赤、青、黄、3つのプラスチックカード（4センチ四方程度）を私が食べるまねをし、その後、Aが食べるまねをした後、Aの前に置き、「先生、赤いビスケット食べたいなー」といいながらAの前のカードを見つめると、青に手を置く。「赤よ赤」と再度促すと赤を取って渡す。次に残った青と黄を前にして同じように話しかけると、すぐに青を取って渡す。

(9; 4, 11) 朝の会が終わり、ベランダに出ている。Aが外を指さしながら、さかんに「アッチイコウ」と言うので、そばにいたT2が「そんならT1に「散歩いこう」って言わな」と言う。同じような話しかけを2回くらいしてT2がAが言うのを促した後、しばらくして「ンモ」と言う。すかさずT2、「ちがうよ、さ・ん・ぼ」というと、すぐに「サンポ」と模倣する（サの音がやや不明瞭）。

(9; 4, 14) 朝の会の時はお名前呼びの時まで大変機嫌よい。シャキッとした声で返事するが、その後は突然ぐずりだしてそれ以後はずっと泣き叫んでいる。

(9; 4, 14) 算数の時間はT2と遊んでいた大きい小さいを扱った本を見せるのから。成人の男性が正面から写っているページを見て指さしながら「オトウサン」と言ったり、大人と子どもが横になっているページを見て「ネンネ」と言ったりしていた。ころあいを見て本を下げるとすぐにぐずるような声を出し、机の左斜め前にあった表に数字、裏にその数だけの具体物を描いたカードを引き寄せて指さす。1から5まで順番に並べて「いーち、にー、さーん・・・」とカードを押さえながら数え始めると、一緒に数唱する。特に「ゴー

は大きくはっきりしていた。その後、丸・三角・四角（全て青色）のカードを左から順に並べて、選択するカードをカードを並べた中央に手で提示して「これはどれ？」「三角は？」などと尋ねるが、全然他を見たまま。色のカードを出すけれどもあまり関心がなさそう。再び同じように3枚図形カードを並べて、とにかく正しいものを指さしたら「ピンポーン」、違うものを指さしても「ブー」と、Aの動作に合わせて言うと「ブー」と言った時にとっても喜んで、自分で指さしながら「ブー」と言ったりする。やはり丸以外は弁別が難しい。

(9; 4, 16) 国語の時間はさまざまな写真カードを見せて反応を見る。

りんごー「ウンゴ」

(9; 4, 17) 朝の会。お名前呼びの時、少しふざけているようだったが、しっかりと大きな声で「ハイ」と返事する。天気調べの時、「今日はどんな天気かな？」というと、すぐに「ハレ」とかなりはっきりした声でいう。手遊び「あーぶく たったにえたった」しているときや、していないときも自分で机を叩きながらリズムを口ずさむ（本人は歌っているつもりのようなのだが）。

(9; 4, 20) 朝の会。返事は歌の後、しばらく頭を回してふざけていたが、その後元気に返事ができる。手遊びの時間、今日は「ぞうさんのあくび」をした。大変調子がいい。「ぞーおさんのあくび……」のフレーズのところでは、大きく手を回して「アーア」と声が出る。

(9; 4, 20) 国語の時間。絵カードを見せる。

●食べ物

パン（フランスパン）→「パン」と言う。以前見せた絵カードは食パンだったので、「パン」という音がどのパンにも命名できるように般化していると思った。

●身の回りのもの

裸電球→カードを提示してしばらく見た後、「デンチ」とはっきり発音した。

(9; 4, 21) 朝の会。時間割のカードをCに読ませた後、片づけようとする、「アッアッ」と言いながら指さす。Aに見せると「あさのかい」と私が言っているイントネーション通りに声を出す。「あ」と「い」ははっきりと発音した。

まず(9; 4, 10)では、「丸」「赤」といった

ことばと実際の具体物が結びつき始めている。いわゆる状態表示語（岡本，1982¹¹⁾）の理解がなされてきていると考えられる。

続いて注目されるのは、(9; 4, 20)のエピソードで、「パン」の音声がいろいろなパンに対して用いられだしていることである。これは岡本(1982¹¹⁾)がいうように、パンという音声の適用範囲拡大(般化的使用)がなされてきていると考えられる。

9歳5カ月

(9; 5, 0) 国語。絵カードを使った課題に関心がなさそうだったので、使っていたひらがなの積み木を交互に積む。気に入ったらしく、何回も交互に積んではそれが壊れるのをとても喜ぶ。この活動は以前も行ったことがあるが、その時に比べると指示がとおりやすくなったようにも感じた。

(9; 5, 0) 算数。始まる前からおもちゃの電話器をととても欲しがると、目の前に置いてやると、すぐに受話器をとって「アイ、アイ」とか「フーン」などと相づちを打つような声を出して一人でおしゃべりしだすが、すぐに私に「ハイ、ハイ」と言いながら受話器を渡して、「これで話してくれ」と懇願するような目で訴える。こちらがAのおしゃべりを模倣しだすと、とても喜ぶ。しかし、同じAのおしゃべりに受け応えするように話しても、ひたすら自分のペースでおしゃべりし、自分で喜んでいるように感じる。

(9; 5, 6) 遊び。ウレタン積木を5個くらい積んだものへ、順番にバルーンを転がして倒す遊びをする。積木が崩れ落ちて音がするたび笑顔が見られる。そのうち、ジュースのペットボトルの上の方を切りとったものを見つけ、T2を見つめながら指さしし、取ってもらおう。そしてそれを車椅子の肘置きに立て、下に落とすことを何回も繰り返す。第2次循環反応的な活動だと思う。

(9; 5, 12) 算数。ジュースのペットボトルの上1/3を切りとった容器に、プラスチック製の色カードを入れさせる。すぐに飽きるかなと思ったが、結構持続して活動する。そして、入れてしまうとすぐに出して……、といった活動を繰り返す。本当に定位的活動は持続する。

(9; 5, 14) 国語。NHK「ともだちいっぱい」を見た。番組のはじめに時計の絵が出てきた。Aはテレビの時計を指さしながら何かしゃべった後、教室の時計を指さしてまた何かしゃべる。

(9; 5, 20) 朝の会の後、「プータンいまな

んじ？」という絵本を読み聞かせる。本の右上に針が動く時計がついていたが、それに大変興味を示して「アッアッ」と言いながら人差し指で指さしたり、触ったりする。

(9; 5, 25) 国語。写真カードを見ながらのやりとり。荒野の廃屋と言った感じの写真。T1がドアの部分を激しく叩きながら「おーい、誰かいるかー」などと叫ぶ。すると、それを見て笑った後、自分も同じ所を叩き、「オーイ」と言う。このようなやりとりがその後しばらく続く。その写真カードなおしても、そのカードのある写真カードの束を指さしながら、「トントン、ンチ」と言って催促する。

(9; 5, 28) 朝の会。時間割調べでCに「Cちゃん、あさのかいの“の”はどれかな？」などと問いかけていると、A、私の顔を手で打ちにくる。T2が「Aも同じ質問して欲しかったの？」と言う。それで私がAにCが問いかけたのと同じように問いかけると、笑顔が見られ機嫌がよくなる。

(9; 5, 29) 算数。机にただけで、頭を後ろにぶつけたりして嫌がる。ペグを出してきいものように積もうとボードから取り始めるが、すぐにいやな姿勢を見せる。そのうち自分から、ペグを一つ耳に当て、電話のまねをし始めるので、私も同じようにして、Aの模倣をすると喜ぶ。しかしこれしかやりたがらず、色の弁別などしようものなら、嫌がり、ペグのある方を指さす。

ここでは、(9; 5, 0)、(9; 5, 6)など、ルーチン化した遊びを楽しむ姿が見られるが、これらは一種のフォーマットを形成していると思われよう。

また、(9; 5, 14)ではテレビの時計と教室の時計を同定するような活動が見られている。ここでの指さしは「叙述」の指さしの中でも「同一性の指さし行動」(秦野, 1983⁹⁾)にあたると思われる。

さらに注目されるのは、(9; 5, 28)のエピソードである。T1が自分にCと同じ質問をしないことに抗議しているような場面である。これは、山田(1978¹³⁾)がいうように、A児自身も同じ質問をしてもらうという「つもり」が無視されたことに対し抗議しているという解釈が妥当であると考えられる。

9歳6カ月

(9 ; 6, 10) 朝の会。日付調べで日にちの「15」のカードを提示すると、それを見てすぐに「ジュウゴ」とかなりはっきりした声で言う。

(9 ; 6, 12) 算数。機嫌が戻ってから球面パズルをする。穴の所に同じ型を途中まで入れてやると、それを人差し指で押し込んで、中に落とすことがおもしろいようで何回も繰り返す。

(9 ; 6, 22) 朝の会。日付調べや時間割調べがすべて終わった後、日付などが貼ってあるボードにお尻を擦りながら近づいてきて、天気のマーカーを貼っているところを指さし、カードをはずしてT1の方に差し出し、「ジャー」という(この時、天気は雨だったが、T1は曇のマーカーを貼っていた。また、Aは雨を「ジャー」と言う擬態語で表現する。)。私が「あー、雨のマーカーを貼らないかんかったね。」といて雨のマーカーにはりかえると納得したような表情をして貼ったマーカーを指さした後に、「ジャー」と言う。

(9 ; 6, 25) 国語。四角いウレタンの真ん中を切り抜いたところから、私が顔を出してテレビのつもりでいろいろしゃべると喜ぶ。

ここでは(9 ; 6, 22)のエピソードが注目される。「ジャー」の一語発話が様々な機能を帯びて用いられている。まず、一番最初に用いられた「ジャー」は、「ジャーが降ってるよ」といった情報の伝達を目的としたものであるのに対し、2回目に用いられた「ジャー」は、貼り代えられたマーカーを確認するような機能を帯びた発語と思われる。

9歳8カ月

(9 ; 8, 26) 朝の会。日付調べのときも、「今日は9月」、「木曜日」と言うと、「ゴッゴツツ」「モーヨウビ」など、かなり明瞭に模倣する。また、朝の会を始める前に「夏休みどこか行ったね」と聞くと、「イッタ、イッタ」「誰と行った?お父さんと……」と言いながらこちらが指を折ると、自分も折りながら「オトウサン、ジイチャン、シユウチャン、イッタ」などと言う。

(9 ; 8, 26) 国語。写真カードを見せる。パンはどのような種類のものでもパンとはっきり言える。

食べ物

- ・コップに入った牛乳、オレンジジュースはいずれも「ジュース」と言う。
- ・長ねぎは切ってあるやつを「ジュージュー」といって焼くまねをして、T1の口の中に入れる。

- ・白ご飯を器についてあるものはじっと見て「ゴハン」

- ・じゃがいもはご飯と同じくじっと見た後、「ンモ」
- ・りんごはT1が「りんご」というとすぐ後に「ゴゴゴ」

家庭用品

- ・水道の蛇口は見たとたんに手を洗うまねをする。
- ・裸電球はしばらく見た後、コンセントは見てすぐ「デンチ」

- ・暖炉は一緒に写っているドアに手をあて、「ヨイショ」といいながら開けるまね。

- ・消防署の写真は消防自動車の絵本を見てすぐだったためか、「ウーウー」

- ・警察の指令室の写真は、電話をかけている男の人に目がいったのか、受話器をもつふりをして「ン、フン」などあいづちの様な声を出す。

(9 ; 8, 26) 算数。球面パズルは5、6個は全く自力でやれる(丸、楕円形、星型(とんがりが多いやつ)、十字など)。T1が「ここにいれんね」といいながら同じ型の穴を指さすと「ココ、ココ」と言って笑いながらそこを指さし、入れようとする。

(9 ; 8, 26) では、ほとんどの物について命的な発語がみられている。その中で、「りんご」「いも」については、構音の面で、語頭、語頭と語の中心にそれぞれ誤りを伴っている。これについては、柴・林部(1988¹²⁾)が健常児、精神発達遅滞児、ダウン症児、の3群での比較を行っている。その中で、誤りの起こる位置は、健常児では2、3モーラの単語で語頭に集中し、4モーラ以上では単語の中央に集中していた。精神発達遅滞児は、2モーラ語では語尾に、その他は中央部に、ダウン症ではモーラ数に関わりなく語頭に誤りが集中していた。A児の場合、他のエピソードでの誤りも見てみると、同じく(9 ; 8, 26)で「くがつ」→「ゴッゴツツ」、「もくようび」→「モーヨウビ」が見られており、上記の単語と同じく語頭に、それもモーラ数に関わりなく誤りが集中しているようである。そういう点では、A児の誤りはダウン症のそれに類似しているようである。

IV. まとめと今後の課題

以上のように本報告では、前回の報告に続き、前言語レベルでの発達的变化がいくつか見出されると同時に、音声言語レベルの変化もいくつか見出された。

主なものを上げると、前者については、(9; 5, 0)、(9; 5, 6)で、遊びが一種のフォーマットを形成し、(9; 5, 14)では、「叙述」の指さしの中の「同一性の指さし行動」(秦野, 1983⁹⁾)が見られた。後者では、(9; 4, 10)で、状態表示語(岡本, 1982¹¹⁾)の理解が始まり、(9; 4, 20)のエピソードでは、音声の適用範囲拡大(般化的使用)がなされてきていた。

続いてこれまでの3回の報告をふまえて今後の課題について考えてみる。A児は、観察開始当初から、要求が大半であるものの指さしが出現しており、伝達手段も指さしと発声の複合化がなっていた。しかしながらその状態が長く、それらがなかなか音声に結びついて言っていない経過がある。これは、Bates, et. al (1975³⁾)の illocutionary stage に留まっている期間が長く、locutionary stage への移行が困難であるという問題と考えられ、今後はその点が指導面も含め検討しなければならないと考える。

さらに一般的な課題では、今回はA児という一人の子どもからF CMD児の発達、特にコミュニケーション発達の解明を試みた。しかし、さらにコミュニケーションの発達像について一般化を図るためには、他の事例での日誌的研究でA児との比較を行うことも必要であろう。同時にF CMD児の全体の発達像については、今回の報告を他の領域の発達と機能連関的観点から検討する必要がある。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、前報告同様、資料使用をこころよく許可していただいたAくんのご家族に深謝いたします。

文 献

- 1) 麻生 武 (1990) : “口”概念の獲得過程——乳児の食べさせる行動の研究——. 発達心理学研究, 1(1), 20-29.
- 2) 麻生 武 (1992) : 身振りからことばへ 赤ちゃんにみる私たちの起源. 新曜社.
- 3) Bates, E., Camaioni, L.k, & Volterra, V. (1975) : Acquisition of Performance Prior to Speech. Merrill-Palmer Quarterly, 21, 205-226. (松尾英巳・山下 勲訳 (1991) : ベイツ : ことば以前の遂行行動の獲得. 福岡教育大学障害児治療教育センター年報, 4, 55-70.)
- 4) 飯高京子 (1976) : 言語的模倣の発達. 村井潤

一編 ことばの発達とその障害. 第一法規, 151-170.

- 5) 伊藤良子 (1989) : 乳児はなぜイナイ・イナイ・バー遊びを喜ぶのか. 東京学芸大学特殊教育研究施設報告, 38, 99-103.
- 6) 久保山茂樹・菅井邦明 (1993) : 歌遊びのコミュニケーション場面における発達遅滞児の音声言語行動の様相. 特殊教育学研究, 31(2), 13-22.
- 7) 熊川宏昭・栗山豊明・松尾逸央・山下 勲 (1992) : 福山型筋ジストロフィー症児の発達に関する事例研究. 福岡教育大学障害児治療教育センター年報, 5, 29-33.
- 8) 熊川宏昭 (1993) : 福山型筋ジストロフィー症児の発達に関する事例研究(2). 福岡教育大学障害児治療教育センター年報, 6, 17-25.
- 9) 秦野悦子 (1983) : 指さし行動の発達の意義. 教育心理学研究, 31(3), 70-79.
- 10) 岡本夏木 (1965) : 言語機能の成立過程 — (そのⅡ) — 一会話的行動の成立—. 京都学芸大学紀要, A, 27, 73-80.
- 11) 岡本夏木 (1982) : 子どもとことば. 岩波新書.
- 12) 柴 民代・林部英雄 (1988) : 構音の誤りに関する発達の研究 — 認知的観点から —. 日本特殊教育学会第26回大会発表論文集, 410-411.
- 13) 山田洋子 (1978) : 0~2歳における要求—拒否と自己の発達. 教育心理学研究, 30(2), 38-47.